

福祉サービス第三者評価結果

事業所名 五反田保育園

発効：平成27年2月20日（平成30年2月19日まで有効）

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

公益社団法人神奈川県介護福祉士会 第三者評価結果

事業所基本事項

フリガナ	ゴタンダホイクエン
事業所名 (正式名称を記載)	五反田保育園
事業所住所 最寄駅	〒252-0815 神奈川県藤沢市石川646-22 JR東海道線「辻堂」駅より 湘南ライフタウン行きバス15分
事業所電話番号	0466-87-8764
事業所FAX番号	0466-87-8756
事業所代表者名	役職名 園長 氏名 伊澤昭治
法人名及び 法人代表者名	法人名 社会福祉法人 湘南杉の子福祉会 法人代表者氏名 理事長 伊澤憲二
URL	http://www.kosodate-web.com/shonan/gotanda/
e-mail	gotanda@kosodate-web.com
問合せ対応時間	9:30~17:00

事業所の概要1

開設年月日	昭和55年4月1日
定員数	150名
都市計画法上の用途地域	第一種住宅地
建物構造	鉄筋コンクリート造り 2階建て
面積	敷地面積 (1,488) m ² 延床面積 (926.61) m ²

事業所の概要2 (職員の概要)

総職員数	37名
うち、次の職種に該当する職員数	園長 (1名) 保育士 (27名) 看護師 (1名) 調理員 (5名) 事務員等 (3名)

事業所の概要3 (受入・利用可能サービスの概要)

受入年齢	生後4ヶ月~小学校就学未満	
延長保育の実施	有	備考:
休日保育の実施	無	備考:
一時保育の実施	無	備考:
障害児保育の実施	有	備考:
病後児保育の実施	無	備考:

保育の方針

「思いやりのある元気な子」の育成

公益社団法人神奈川県介護福祉士会 第三者評価結果

1. 総合コメント

総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善を要する点）

- 「おもいやりのある元気な子」の育成を目指し、行動指針に「①大きな心：優しいまなざしで抱きしめよう。②『もっと』の心：目標を持って進んでいこう。③いつも元気な心：諦めない気持ち・踏ん張る力を持とう。④柔らかな心：相手の気持ちになって考えよう。⑤理想の心：いつも冷静に、でも心は熱くあれ。」を掲げている。園の基本理念や行動指針は、職員が中心になって見直しを行い、自分たちの思いとして示している。
- 園独自の「ステートメントブック(保育士の基本行動マニュアル)」を作成し、全職員に配布している。「ステートメントブック」は、職員参加の下で作成し、職員会で内容を周知している。「ステートメントブック」は貸し出しとしており、職員全員が大切に扱っている。
- 保護者や家庭との連絡、情報交換を密に行っている。朝夕の送迎時に口頭で情報を交換する他、0歳児には、専用の育児ノートを使用している。育児ノートは複写式になっており、家庭とのやりとりの記録を残すようにしている。また、全園児に連絡帳を使用している。連絡帳は、0～1歳児には毎日、2歳児は週1回、3歳児以上は必要に応じて使用し、情報交換を行っている。
- 子どもの人数が多いが、保育士は大きな声で話さず、落ち着いた小さい声で話すことにより、子どもたちが集中して聴くことができるようにしている。登降園時の明るい挨拶、必要に応じた言葉かけ、伝言ゲームやジェスチャー、紙芝居などによる会話を大切にし、また、子どもが何気なく呟いた一言を大事にし、聴き逃さないようにして、子どもの気持ちを大切に聴くようにしている。
- 近隣には公園が多く環境に恵まれ、園外保育に出ることが多い。子どもたちは、ゲートボールをしている方たちや地域の親子と一緒に遊び、のびのびと身体を動かしている。近隣の老人ホームに年3回訪問する他、図書館に行って読み聞かせに参加したり、勤労感謝の日には近くの交番にプレゼントを届けたり、公共のバスに乗ったりして、地域の人との触れ合いを多く体験している。
- 4、5歳児は当番を決め、食事時の配膳や挨拶、年少クラスの食事準備などを手伝っている。子どもたちは当番になることを楽しみにしている。また、当番になった子どもを見て、小さい子どもたちも早く当番をやりたいと感じている。当番活動では、給食のトウモロコシの皮むきなど、食材の下ごしらえなども行っている。
- 外部講師による体育遊びやリトミック(音楽教育法)、鍵盤ハーモニカなど、好きな遊びを通して、表現する機会を多くしている。自由時間の遊びも大切にし、さまざまなおもちゃを使い、表現力を高める工夫をしている。日々の体育遊びの中から、成長の過程を保護者に見てもらうために、近くの公園で、保護者と一緒に「体育遊び(運動会)」を年1回行っている。「体育遊び(運動会)」には、地域の子育て家庭にも参加を呼びかけている。日ごろから練習している鍵盤ハーモニカやタンバリン、カスタネット、鈴などを使った合奏は、「生活発表会」で保護者に披露している。
- 幼児クラスでは自分で食事の盛り付けをして、食べる量を自分で確認するようにしている。夏にはブロッコリーやピーマン、キュウリ、ナス、トマト、稲などの栽培を行い、食材への関心を深めている。また、野菜作りの失敗を通して、野菜を作ることは大変だということを感じ、感謝の気持ちを育むようにしている。

評価領域ごとの特記事項		
1	人権への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもや保護者への関わり方については、ステートメントブック(保育士の基本行動マニュアル)を作成し、全職員に配布している。ステートメントブックは、職員参加の下で作成し、職員会の場で、不適切な対応がないよう内容を説明している。 ○外国籍の子どもが2名在籍している。宗教上の理由で食事の制限がある子どもに対しては、家庭と連携を取りながら、補食を用意している。出生や国籍などによる差別につながらないよう配慮している。 ○子どもの虐待予防や早期発見の連携については、園長が地域のネットワーク会議に参加し、内容を検討している。園で気になる子どもがいる時には、市の保育課に連絡し、対応している。 ○個人情報保護規程を整備し、職員会で周知に努めている。個人的な内容は、事務室や個室を使用し、第三者に話の内容を聞かれないよう配慮している。氏名などで個人が特定されないようにしている。 ○実習生の受入れ時には、園長や主任保育士がオリエンテーションを行い、写真撮影の禁止や園児名のメモ禁止などを説明している。
2	利用者の意思・可能性を尊重した自立生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭との連絡、情報交換は、朝夕の送迎時に口頭で行う他、全園児に連絡帳を使用して行っている。連絡帳は、0～1歳児には毎日、2歳児は週1回、3歳児以上は必要に応じて使用し、情報交換を行っている。 ○0歳児には、専用の育児ノートがあり、家庭との情報交換を密に行っている。 ○保護者との懇談会は年2回行い、個人面談も年1回実施し、保護者の意向や要望、意見を確認している。 ○保護者からの意見、要望については、「意見・要望受付簿」で様式を定め、保護者の声を受け止めている。今年度は4件の意見、要望があり、それぞれについて対応している。
3	サービスマネジメントシステムの確立	<ul style="list-style-type: none"> ○「苦情解決窓口」要綱で、苦情の受付から解決までの手順を定めている。また、玄関に苦情解決のポスターを掲示して周知を図っている。保護者からの苦情については、その都度、解決を図っているが、内容によって第三者委員の助言や立ち会いが必要かどうか、相談者に確認するようにしている。 ○室内環境は、「冷房・暖房の使用マニュアル」や「危険物管理マニュアル」に基づき、管理をしている。危険物は、薬品別に点検記録簿を備え、保管状況を確認している。 ○子どもが触れるおもちゃ、タオル、布団、砂場などの消毒・除菌、遊具の安全管理は、「遊具及び玩具の点検管理マニュアル」に、点検や消毒方法を明記している。管理チェック簿に状況を記載するとともに、保育日誌にも状況を記入している。 ○「服薬マニュアル」に、与薬に対する対処方法を明記している。保護者から預かった薬は、事務室で保管し、クラス担任が与薬している。現在、10名ほどの園児の薬を預かっている。 ○体調不良や、けがが発生した場合の園児の対応は、ステートメントブックの「保護者とのコミュニケーション」や「事故の対処について」に基づき、適切な対応をとるようにしている。インフルエンザなどの感染症は、感染症掲示板に情報を掲示している。

4	地域との交流・連携	<p>○地域の子育て支援として、子育て相談や保育体験、交流体験、電話相談を行っている。地域の子育て家庭に対し、納涼会や体育遊び(運動会)、焼き芋会、誕生会などの園の行事に参加を呼びかけている。</p> <p>○地域の子育て相談は、見学に来た際に受けることが多く、園長や主任保育士が対応し、アレルギーや離乳食などの相談を受けている。</p> <p>○近隣の小学校への訪問や、老人福祉施設の高齢者との交流を行う他に、自治会の人を園に招待し、交流している。</p>
5	運営上の透明性の確保と継続性	<p>○「チャレンジシート」を使って、職員が自己の課題や問題点を確認している。また、園の基本理念や行動指針についても、職員が中心になって、見直しを行っている。</p> <p>○「えんだより」を毎月発行する他、ホームページに園の活動の様子を掲載し、情報提供や情報開示に努めている。</p> <p>○保護者の保育参観は、年間行事予定表や「えんだより」で、知らせている。保育参観日の1ヶ月前には、園の掲示板にも掲示し、保護者に周知できるようにしている。</p>
6	職員の資質向上促進	<p>○前年度の実績をベースにして、年間研修予定表を作成している。外部研修は、主任保育士が中心になり、参加者を決めている。</p> <p>○外部研修に参加した時には、年3回、職員全員が参加して研修報告会を行っている。研修報告書は事務室の書庫で保管し、いつでも内容を確認できるようにしている。</p> <p>○実習生の受け入れは、「実習生受け入れについて」を作成し、園長及び主任保育士を実習の総括責任者として、受け入れを行っている。</p>

2. 評価項目に基づく評価の結果

大項目 1 保育環境の整備

評価機関が定めた評価項目に添って、調査を行った結果です

大項目 1 全体 （調査確認事項全 80 事項） を通してのサービスの達成状況	98%
---	------------

大項目 1 の内容(概要)

1	人権の尊重	子どもや保護者に対する態度や言葉遣い 出生や国籍、性差などによる差別の禁止 子どもの虐待予防や早期発見のための地域の関係機関・団体との連携
2	プライバシー確保	プライバシー確保への配慮 個人情報保護の体制整備
3	家庭と保育園との信頼関係の確立	家庭との連絡、情報交換の体制 家庭の意向・希望の把握
4	苦情解決システム	苦情解決の体制整備
5	環境整備	温度や湿度等の管理 洗剤等の危険物の管理 おもちゃ、遊具等の管理
6	健康管理(感染症対策・救急救命を含む)	体調不良児、けがへの対応 感染症への対応 救急事態発生時の医療機関・家族等との連携
7	危機管理(防災・防犯)	火災や震災等の対応 日常の防災・防犯体制の整備
8	地域の子育て支援	地域内の子育てニーズの把握と支援
9	自己評価と情報開示	自己点検・改善活動の実施 地域への情報提供、情報開示 見学や保育参観の機会の設定
10	職員研修	職員研修の実施 実習生の受入れ、指導

大項目 2 保育内容の充実

事業所から自己申告された内容について、事実確認を行った結果です

項 目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>子どもと保育士との かかわりにおいて、子 どもの情緒の安定をは かることや、順調な発 育・発達を促すため にどのような取り組み をしていますか</p>	<p>① 一歩踏み出す機会を作るようにしている。 ② 子供のしぐさや言葉を受け止め、発達に 応じて要求を満たす援助をする。 ③ 子供や保護者のおかれている背景を理 解し、安心して甘えられるように、子供 の気持ちに寄り添っている。</p>	<p>① 鉄棒で遊んでいるときに、やりたい気持 ちはあるが踏み出せない子供に「やってみ ようか」と声かけをして、一緒にできるよ うに促していること、その他の遊びでも、取 り組むことができずにいる子供には積極 的に声かけをしていることを、「保育日 誌」や「月間カリキュラム」、聴き取りで確 認した。 ② 情緒不安定でパニックになる子供には 個々の状態を職員全員で共有し、安心で けるよう専門的対応をしていることを、「職 員会議事録」や「個別ノート」、「個人フ ァイル」で確認した。 ③ 保護者が下の子の出産のときに不安定 になる子供が多いため、保護者への適切 な対応とともに、子供の不安定な気持ち をしっかり受け止め、情緒の安定を図っ ていることを、「ケース記録」や聴き取りで 確認した。</p>
<p>子ども同士のかかわ りにおいて、個の違い を認めあうことや他者 と自分を大切にす る心をもてるよ うにするため にどのような取 り組み をしていますか</p>	<p>① 個々の良いところを、保育士が声に出 して言っている。 ② 子供達自らに遊びのルール作り等を経 験させ、見守っていく。 ③ 喧嘩やぶつかり合いが双方の子供の発 達に、どのような意味があるのかを考え ながら見守る。</p>	<p>① 子供同士の関わりの中で、保育士は「○ ○ちゃんは△△ができたよ」と、子供が認 めあえるようにしていることを、「保育日 誌」や聴き取りで確認した。 ② 子供たちがサッカーをしているところに、 年少の子供が入ってきたりすると、子供 たちで「危ないから、ころがしドッジボ ールにしよう」など、状況を見てルールを 変えて遊んでいることを、「保育日誌」や 聴き取りで確認した。 ③ 年少の子供のおもちゃの取り合いなど には、ルールを話したり、乳児の場合に はトラブルを未然に防ぐようにしているこ と、5歳児には、トラブルがあった時 には、自分たちで解決できるようにして、 発達に応じた関わりをしていることを、 「保育日誌」や聴き取りで確認した。</p>

<p>子どもと社会とのかわりにおいて、人に役立つことの喜びを感じたり、人と関わることの楽しさを味わうことができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①当番表を作り、クラス内および異年齢クラス、また厨房に対して役割を持たせている。 ②園外保育時、地域の人々のふれあいを積極的に持ち、気持ちの良い挨拶をする。 ③公共機関の利用。</p>	<p>①4、5歳児は当番を決め、食事時の配膳や挨拶、年少クラスの食事準備などを手伝っていること、子供たちは当番になることを楽しみにしていること、当番になった子供を見て、小さい子供たちは早く当番をやりたいと思っていること、また給食のトウモロコシの皮むきなど、食材の下ごしらえなどもしていることを、「当番表」や写真、訪問調査時の昼食の様子で確認した。 ②近隣には公園が多く環境に恵まれ、園外保育に出ることが多いこと、ゲートボールをしている方たちや地域の親子と一緒に遊ぶこともあること、近隣の老人ホームに年3回行き交流を図っていることを、「保育日誌」や訪問調査時の園外散歩の様子で確認した。 ③近隣にある図書館に行き、読み聞かせに月1回参加し、その後好きな本に親しんでいること、勤労感謝の日には近くの交番にプレゼントを届けたり、公共のバスに乗り、地域の人との関わりを持っていることを、「保育日誌」や聴き取りで確認した。</p>
<p>生活や遊びなどを通して、言葉のやりとりを楽しめるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①気持ちを代弁している。 ②子供の言葉の奥にある気持ちが膨らむように、多様な言葉を使うようにしている。</p>	<p>①絵本や紙芝居を通し、言葉のおもしろさを伝えたり、絵本の中の主人公の気持ちなどを考えたりしていること、まだ言葉がうまく話せない子供には、子供の気持ちを「今、こうなのね」と保育士が代弁し、安心してもらおうようにしていることを、「保育日誌」や訪問調査時の保育室の様子、聴き取りで確認した。 ②お店屋さんごっこ、体育遊びなど、さまざまな遊びの中で、言葉のやり取りを楽しむよう保育を展開していること、言葉のやり取りの中で、自分の気持ちが表現できるよう、できるだけたくさん言葉を使うようにしていることを、「保育日誌」や訪問調査時の保育室の様子で確認した。</p>

<p>生活や遊びなどを通して、話すこと・聞くことが楽しめることや言葉の感覚が豊かになること、自分の伝えたいことが相手に伝わる喜びを味わうことができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①挨拶当番を設ける。 ②声の大きさに気をつけ、わかりやすい言葉遣いでゆっくり話す。 ③子供が話しかけてきた時、その気持ちが満足できるようにゆとりを持って聞き、会話の時間を大切にしている。</p>	<p>①4、5歳児はクラスでその日の当番を決め、皆の前で話す機会を設けていることを、訪問調査時の挨拶の場面で確認した。 ②子供の人数が多いが、職員は大きな声で話さず、落ち着いた小さい声で話すことにより、子供たちが集中して聴くことができるようにしていることを、訪問調査時の保育士の関わりで確認した。 ③登降園時の明るい挨拶、必要に応じた言葉かけ、伝言ゲームやジェスチャー、紙芝居などによる会話を大切にしていること、また子供が何気なく呟いた一言を大事にし、聴き逃さないようにして、子供の気持ちを大切に聴くようにしていることを、聴き取りで確認した。</p>
<p>生活や遊びなどを通して、楽しんで表現することができるようにすることや表現したい気持ちを育むためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①好きな遊びの充足をはかる。 ②苦手な子には一緒に寄り添いながら、イメージを膨らませる。 ③大人の価値観で評価せず、子供の感性を汲み取っていく努力。</p>	<p>①外部講師による体育遊びやリトミック、鍵盤ハーモニカなど、好きな遊びを通して、表現する機会を多くしていること、自由時間の遊びも大切に、さまざまなおもちゃを使い表現力を高める工夫をしていることを、「保育日誌」や訪問調査時の体育遊びの様子で確認した。 ②造形、リズム遊びの苦手な子供には、寄り添いながら一緒に行い、自然に参加できるようにしていることを、「保育日誌」や聴き取りで確認した。 ③その日の活動をこなすのではなく、活動の中から出た子供たちの疑問を大事にし、皆で考えるようにしていることを、「月間カリキュラム」や聴き取りで確認した。</p>
<p>生活や遊びなどを通して、自発的に表現する意欲を育むことやみんなで一緒に表現する喜びを味わえるようにすること、創造的に表現することができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①お店屋さんごっこ、体育あそび、発表会などの行事を通して、表現する機会を持っている(造形、音楽リズム、合奏等)。 ②リズム遊びを十分に楽しみながら、合奏の楽しさにつなげて行く。</p>	<p>①日々の体育遊びの中から、成長の過程を保護者に見ていただくために、近くの公園で保護者と一緒に「体育遊び」を年1回行っていること、子供たちは親に見てもらえるという気持ちが強く、その日が近づく緊張し、大きな成長へと変わっていくこと、子供同士、親子、職員が一緒になり成長の喜びを感じていることを、聴き取りで確認した。 ②一年間の集大成として「生活発表会」を行っていること、日ごろ楽しみ、練習している鍵盤ハーモニカやタンバリン、カスタネット、鈴などを使った合奏などを行い、保護者に見てもらっていることを、聴き取りで確認した。</p>

<p>生活や遊びなどを通して、聞く・見るなど感覚の働きを豊かにすることや身体を動かす楽しさを味わうこと、身近なものに対する興味や関心を引き出すためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①保育士自身の感覚を研ぎ澄ます。 ②園庭や園外で、ごっこ遊び等を行う。 ③イメージの膨らむよう、用具を使用したり、ストーリー性を持たせて楽しむ。</p>	<p>①保育士は子供たちの身体の成長や、生活習慣の中でできるようになったことだけでなく、ちょっとした時のつぶやき、また目に見えない心の変化などを見ていくよう努力し、職員間での共有を図っていることを、「保育日誌」や聴き取りで確認した。 ②園外保育を通して自然に親しみ、興味関心を持てるようにしていること、園外保育では、子供たちは葉っぱの色の変化などで季節の変化を感じたり、空を見て雲の動きに感動したりしていること、自然のものを使って、ごっこ遊びを行っていることを、「保育日誌」や聴き取りで確認した。 ③雨の日には傘をさして園庭に出て、傘に当たる雨の音をきいたり、晴れた日の靴の音と長靴の音の違いを感じたりしていることを、聴き取りで確認した。</p>
<p>生活や遊びなどを通して、身近な様々なものに対する探索意欲を満足させることや社会や自然の事象や、動植物への興味や関心をもてるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①園外(公園)に積極的に出かけ、四季の変化を全身で感じられるよう意識している。 ②図鑑などを持参し、疑問や質問には一緒に調べたりする。 ③木の実や木の葉を比べたり、変化を楽しむ中で、探究心や好奇心を誘っていく。保育士も動物や自然に興味関心を持つように心がけている。</p>	<p>①園外保育を多く取り入れ、季節の変化を楽しんでいることを、聴き取りで確認した。 ②園外保育で発見した物を、保育士と一緒に図鑑などを使って調べて名前を知り満足したり、本の付録の図鑑を見て楽しんでいることを、聴き取りで確認した。 ③園外保育で拾ってきたドングリをアスファルトで削ると、中から白い実が出てきたのを見て、「ピーナッツが出てきた！」と大喜びをするなど、いろいろなものに興味関心を持たせるようにしていること、また毎年ツバメが園内に巣を作り、子育てをするのに関心を持って観察していること、その他、カブトムシなどを飼い、夏には野菜を育てていることを、聴き取りや訪問調査時の園内の様子で確認した。</p>

<p>自分から食べようとする意欲を育んだり、排泄をしようとする意欲を育むためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①家庭と連絡を密にとり、食べきれる量に調節し、『残さず食べる』喜びを知らせている。 ②自分で配膳したり、食材やその働きなどを知らせ、意欲につなげる。 ③子供達が自ら栽培に携わることで、苦手な食材克服の助けとする。 ④他児の様子を見る所からはじめ、興味を持たせ、無理のないよう進めて行く。</p>	<p>①1、2歳児には、食べられる量を確認しながら配膳し、全部食べられた喜びを感じてもらおうようにしていることを、聴き取りで確認した。 ②3歳児からは、自分でご飯とみそ汁を盛り付け、自分の食べられる量を確認していること、まだ食べられるときには、自由にお代わりをしていること、色別にした栄養の表や絵本を使って、食べ物が身体の中でどうなるかなど話をしていること、うんちの絵本が皆好きということ、訪問調査時の昼食の様子や聴き取りで確認した。 ③夏にはさまざまな野菜を栽培して、食物への関心につなげていること、先日は「さんまパーティ」で、さんまの解体をして魚の身体がどうなっているかを調べたりしていることを、「保育日誌」や聴き取りで確認した。 ④乳児の離乳食は、他の子供の食事を見ながら、食べたいという気持ちを持たせ、離乳食を提供していること、トイレに関しても他児の様子を見ながら興味がわくようにしていることを、「育児ノート」や聴き取り、訪問調査時のトイレの様子で確認した。</p>
<p>身の回りのことを自分でしようとする意欲を育むことや基本的な生活習慣を身につけること、食事や休息の大切さを理解することができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①絵本や紙芝居などを通して、知らせている。 ②自分でやろうとする気持ちを大切に、個人差に配慮しながら楽しく進めていく。</p>	<p>①基本的な生活習慣ができるだけ自分で出来るように、絵本や紙芝居などで関心を持たせるようにしていること、寝る前には「虫歯ちゃんとなかよしになっちゃう」などの絵本で、歯磨き指導をしていること、自分ではできない子供のクラスには、4、5歳児が、お昼寝のパジャマの着替えを手伝っていること、子供たちは、痛くないように手を入れてあげたり、ズボンははかせたり、いたわりながら行っていることを、「保育日誌」や聴き取りで確認した。 ②1、2歳児は、年長児が手伝ってくれるのを見て、自分もやってみようという気持ちになること、また少し大きくなると、今度は自分が小さい子の面倒を早く見たいと思うようになることを、訪問調査時の保育室の様子や聴き取りで確認した。</p>

大項目 3 保育園の特徴

事業所から自己申告された内容について、事実確認を行った結果です

項目	事業所による特徴的取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>子どもの豊かな心と身体をはぐくむための特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>①子供の生活リズムを整え、健康、安全、生命の保持と生活の安定を図る。 ②子供との信頼関係を作り、情緒の安定を図る。 ③年齢にあった活動を提供し、心身の健全なる発達をうながす。</p>	<p>①毎日の早寝早起きの習慣を身につけてもらうよう、保護者に働き掛けていること、以前は朝ごはんを食べてこない子供がいたが、今は皆朝ごはんを食べて元気に登園していることを、訪問調査時の保育士の関わりで確認した。 ②乳児が朝泣いている時には抱っこをし、スキンシップを多くとっていること、年齢が上の子供には、子供たちの言いたいことを聞きとり、信頼関係を作るようにしていることを、聴き取りで確認した。 ③0歳児にはスキンシップを大切にしていること、1歳児には友達との関わりの橋渡し、2歳児はヤダヤダの時期なので気持ちをくみ取っていること、3歳児は友達同士の関わりができてくる時期で、心が揺れる時期でもあるので気持ちを受け止めていること、4歳児は他の人のことが考えられるよう、5歳時は個性を認め自信をつける関わりをしていることを、聴き取りで確認した。</p>
<p>保育環境に特別な配慮を必要とする子ども(長時間保育、障害児保育、乳児保育、外国籍園児)の保育に関しての特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>①宗教上の理由で、食事の制限がある子供について、補食を用意している。 ②障害のある子も無い子も、「共育」のもと、積極的に受け入れている。 ③乳児保育も実施。</p>	<p>①外国籍の子供が数名おり、宗教上で食物の制限がある子供に対しては、家庭と連携を図りながら、別の食材を用意して提供していることを、「〇〇君の食事について」で確認した。 ②障害認定を受けている子供も数名いること、子供の特性を職員間で共有し、パニックになった時には、クールダウンできるコーナーを保育室の中につけて、職員が対応するなどの配慮をしていることを、訪問調査時の保育室のコーナーで確認した。 ③乳児保育では SIDS(乳幼児突然死症候群)に注意をし、うつぶせに寝かせず、呼吸の確認などのチェック表を作成し取り組んでいることを、「SIDS チェック表」や訪問調査時の午睡の様子で確認した。</p>

<p>健康管理に特別な配慮を必要とする子ども(アレルギー疾患をもつ園児、乳児保育、病後時保育など)の保育に関しての特徴的な取り組み(アレルギー食対応、個別食、離乳食など)について説明してください</p>	<p>①個別トレイを使用と共に、除去食材別に食器の色を変えている。 ②病後のくすりの預かり。</p>	<p>①アレルギーのある子供は、入園前に医師に診断してもらい、保護者と面談し、食事の提供をしていること、除去食はトレイや器の色を変え、名前を記入していること、間違いを防ぐため、厨房とクラスで二重チェックを行っていることを、訪問調査時の昼食の様子で確認した。 ②風邪をひいたときなどに処方された薬は、1回分だけ預かっていることを、訪問調査時の薬を入れた容器で確認した。</p>
<p>食に関しての特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>①幼児クラスには、自分の食べれる量(適量)を知らせるため、自分で盛り付けをさせている。 ②栽培等を通して、食材への関心を持たせる。 ③生産者への感謝と食事のマナーを知らせていく。</p>	<p>①幼児クラスでは自分で食事の盛り付けをして、食べる量を自分で確認するようにしていることを、訪問調査時の昼食の様子や聴き取りで確認した。 ②夏にはブロッコリーやピーマン、キュウリ、ナス、トマト、稲などの栽培を行い、食材への関心を持たせていること、その結果、苦手だったものが食べられるようになった子供もいることを、「保育日誌」や写真、訪問調査時の園内の様子で確認した。 ③ソラマメを栽培し失敗した時があったが、失敗を通して野菜を作ることは大変だということを感じ、感謝の気持ちを育むことができたこと、「いただきます」「ごちそうさま」の意味を話したり、生産者だけでなく調理をしてくれる厨房の人たちへの感謝も感じるように働きかけていることを、写真や聴き取りで確認した。</p>

<p>家庭とのコミュニケーションに関する特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>①クラスごとに、その日の出来事を詳細に書いて、掲示している。 ②連絡漏れの無いように、申し送りのノートを使っている。</p>	<p>①0歳児とは「育児ノート」で毎日保護者との連絡を行い、子供の健康状態や生活の様子などを伝えていること、1、2歳児は「連絡帳」で保護者と連絡をとっていること、3、4、5歳児はクラスの前の掲示板に、その日の出来事などを掲示していること、朝と帰りの保護者との挨拶の中で、今日の出来事を口頭で毎日伝えていることを、「育児ノート」や「連絡帳」、訪問調査時の掲示板の内容で確認した。 ②保護者との連携や信頼関係を作るように努めていること、職員全員がすべての子供の様子をわかるようにするため、職員間で「申し送りノート」を活用していることを、「申し送りノート」や「お迎え時間」で確認した。</p>
<p>地域の子育て支援に関する特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>①保護者からの申請により、体験保育を実施している。 ②育児相談の受付。</p>	<p>①地域の障害児を持つ保護者から、交流の場を作ってほしいという希望があり、月1回障害児を持つ保護者との交流の場を持っていること、また保育を見学に来たり、体験保育を行うこともあることを、聴き取りで確認した。 ②育児相談は、電話での相談があるが、藤沢市で育児相談を行っているので、園では育児で困っているという相談より、入園の相談が多いことを、聴き取りで確認した。</p>

3. 利用者への調査

～ 保護者アンケート調査を実施した結果です ～

(1) 調査の状況

調査期間	平成26年10月
調査方法	所定の調査票(アンケート票)により実施した。
調査対象者の匿名化	調査は無記名で行い、調査結果から回答について個人が特定化される場合は、評価機関で匿名化を図った。
アンケート調査票の配布	対象者には事業所を經由して調査票を配布した。
アンケート調査票の回収	記入済みの調査票は対象者から直接、評価機関に郵送された。
回収の状況	調査票配布数 90通 : 返送通数 61通 : 回収率 67.8%

(2) 調査結果の傾向

◆アンケート調査全体の傾向

- 項目別の回答状況では、「園での子どもの様子の報告」や「在園中の体調不良やケガの説明」、「懇談会や個別面接での意見交換」、「感染症の情報提供」、「遊具の清潔面や安全面の配慮」、「緊急時の連絡体制」、「保育内容」、「子どもに対する職員の対応」、「保護者に対する職員の対応」、「子どもが楽しく過ごしている」について、高い満足が得られている。
一方、「防犯対策」については、より一層の努力が期待されている。
- 個別意見では良い点として、「保育士の対応や挨拶」、「クラスに関係なく保育士が子どもや保護者に声を掛けてくれる」、「相談しやすい」などが挙げられている。
- 保育内容では、「園外保育や園庭遊びが多い」、「行事やイベントが充実している」などに、多くの意見が寄せられていた。
- 一方、改善を望む点としては、「園での様子をもっと教えてほしい」、「感染症予防を徹底してほしい」などの意見が挙げられていた。園に改善を望む点について、具体的な内容が挙げられていることから、今後の取り組みの課題として位置付けることを期待する。
- 全体を通して、日常の保育や園児の様子から、園の姿勢や取り組みが保護者に伝わり、支持されていることが推察される。園外保育を多く取り入れ、子どもたちがのびのびと過ごす保育の取り組みが保護者に支持されていることがうかがえる。